

来春は天皇が代変わりするらしい。ああ、そうですか。思わず二十九年前の国をあげての大騒ぎを思い出した。そして「昭和」が「平成」に変わった時の自分一人の不愉快を。それまで気づかなかったのだ。「年号」が「天皇制」と表裏一体のものということ。

生まれた日から死ぬまでついてくる生年月日と親にもらった名前。それはいくら気にいらなくとも、受けとって生きて行くしかない。だが日本に生まれた者には生年月日の上に更に余分にその年の年号がつくのである。明治とか昭和とか平成とか。それも自然の運命みたいに。

私と同年の女の子の名前は「和子ちゃん」が圧倒的だった。誰も不思議に思わなかった。昔から和という漢字は、なごやか、のイメージがあり、平和のわでもあるのはたまたまの幸運にちがいないが、天皇制を支持しない自分としては、この先だけでも「平成」は使わない、と私は心に決めた。それに平成って二字はちっとも美しくない。年号を使わなくとも不便は起きぬ。いずれは万国共通の西暦でこと足りる日がくるであろうから。

だが「平成」は強かった。人はごく自然に平成になじみ、西暦との二本立てを不便とも感じなくなった。町内の敬老会などで「お幾つ」と聞かれるたびに「一九三〇年生まれ」と答えると、きよとんとされる。浮いてしまう。

市役所や税務署からの連絡文書の日付は相変わらず平成である。日の丸・君が代よりはるかに広く日常に浸透しているのが年号だ。

来年はまた新しい年号が出てくるのだろう。そして新しいものの好きの日本人はまたもお目出たがるのだろう。やれやれ。自分のできることは西暦派の一人として、生きて行くしかなさそうである。そして新しい年号もやっぱり私は嫌いだと思う。